

新 シリーズ

シリアの節水灌漑普及ツール <その1>

これまで、この AAINews で何度か紹介してきた通り、国際耕種は 2005 年以来シリアでの節水灌漑農業の普及に取り組んできた(AAINews 78 号)。シリアでのプロジェクトで我々は「目標達成型研修普及方式」を提唱し、普及員への研修や、普及員が行う普及活動の改善に努めてきた(AAINews 68 号)。「目標達成型研修普及方式」とは、「普及すべき技術、知識がない」、「普及のやり方が分からない」、「教える自信がない」といった無い無いづくしの普及員に対して、節水灌漑の知識や技術はもちろん、普及活動の企画や実施運営など普及員に必要とされる技能に対しても実践的な対処法を学んでもらうため、研修受講から普及活動実施までを一連の流れ(ニーズの把握→研修テーマの選定→普及員研修の実施→普及員による普及活動→農家の問題解決)として研修活動と普及活動とを関連付けた方式である。

この方式では、原則として研修を企画する時点ですでに農家に対して「何を、どのように伝えるか?」が明確となっていなければならない。灌漑技術に対する知識が乏しく節水への意識が低い農家に対して「どうしたら節水に興味を持つのか?」「どうしたら分かりやすく伝えられるのか?」という事を悩み続けた結果、このプロジェクトでは4つの普及ツールの開発に行き着いた。4つの普及ツールとは「流量測定キット」、「灌漑早見表」、「灌漑手帳」、「デジタル灌漑手帳」であり、普及員は農家に対

してこの4つのツールの使い方を説明し、配布することで節水灌漑に必要な知識と情報を伝えることができ、農家がこれらツールを使いこなすことで節水や営農全般への意識が高まるという仕組みとなっている。

「流量測定キット」は農家自身が自分の圃場の灌水量を簡便に測定するための道具一式である。これを使うことにより自分がどれくらいの水を灌漑に使ったのか、という事を把握でき現状を知ることができる。「灌漑早見表」は農家がある作物に対してどれくらいの時間灌漑すれば良いのか、という目安を伝えるツールである。「灌漑手帳」は栽培記録ノートとして利用し、日々の農作業を灌漑手帳に記録することで自分の無駄遣いを発見するためのノートである。「デジタル灌漑手帳」は灌漑手帳のパソコン版として開発し、農家が記録したデータに基づいて自動でグラフを作成し視覚的に情報が伝わりやすくしたものである。これらツールを組み合わせることで、農家は自分の営農状況について客観的に知ることができ、そこから気づきや節水意識が芽生えることが期待される。

このシリーズでは次号より各ツールについて、開発のきっかけや工夫、苦勞、ツールを使ったことでどのような成果が得られたのかなどについて紹介していきたい。

必要な灌水量を学ぶ



灌漑早見表で灌水量について学ぶ

日々の作業を記録・分析する



灌漑手帳で栽培を記録する



デジタル灌漑手帳で記録を分析

圃場の状態を知る



流量測定キットで灌水量を把握する

来年に活かす!



栽培を見直す